

● 草の根パートナー型

平成23年度第2回 採択内定案件

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 対象国名	フィリピン
2. 事業名	フィリピン・中部ルソン地域における児童養護施設のごども達の健全育成と自立のための施設職員能力強化プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	フィリピン共和国では、一定の経済成長を遂げている一方で、貧富の差は拡大している。貧困層では、経済的理由や親による育児放棄・虐待といった理由から家庭における児童の育成が困難となり、児童養護施設にごどもを預けるケースが多い。 現在、フィリピンにおける児童養護施設は、公営・民間ともに政府機関である社会福祉開発省の管轄で運営されており、ハウスペアレント（児童指導員）がごどもの親代わりとなり、ごどもの自立促進や日常生活のケア等を行っている。施設で暮らすごども達は身体・精神的に多くの問題を抱えており、育成にあたり注意しなければならない点も多い。ハウスペアレントは教育資格や専門資格を有していなくてもなることは可能だが、研修制度が整っていないためにごどもの育成に関する知識やスキル不足であることが課題となっており、その結果、様々な問題が起こりやすい。以上のことから、社会福祉開発省による導入研修やフォローアップ研修を設置し、すべてのハウスペアレントに業務に必要な知識やスキルを確実に習得させ、継続的に向上させる必要があると考える。そこで、本事業では社会福祉開発省と連携し、ハウスペアレント向けの研修制度を確立することを旨とする。
4. プロジェクト目標	対象地域において、児童養護施設のハウスペアレントの研修制度が確立される
5. 対象地域	フィリピン共和国第三地域中部ルソン（オロンガポ市、サンパレス州、タルラック州、パンパンガ州、ブラカン州、バタアン州、ヌエヴァ・エシハ州）
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<直接受益者> 対象地域にある児童養護施設のハウスペアレント（約250名）およびソーシャルワーカー（約100名）、対象地域の社会福祉開発省オフィサー（6名） <間接受益者> 上記施設で生活するごども達（約2200人）
7. 期待される成果及び活動	<成果> 1. ソーシャルワーカーとハウスペアレント向けの研修プログラムが開発される 2. クラスタを基盤とするハウスペアレント向けの研修の実施体制が確立される 3. 2015年までに各施設のソーシャルワーカーとハウスペアレントの能力が強化される <活動> 1-1 児童養護施設が抱える問題に関するベースライン調査を実施する 1-2 2013年にソーシャルワーカーとハウスペアレント向けの研修プログラム開発のための計画を作成する 1-3 2013年にソーシャルワーカーとハウスペアレント向けの研修プログラム検討会議を社会福祉開発省オフィサーとともに月2回実施する 1-4 2013年に本邦研修を実施し、日本の研修やクラスタの仕組みについて学ぶ 1-5 2013年にソーシャルワーカー向けの研修マニュアルとハウスペアレント向けの研修教材（モジュール）を開発する 2-1 クラスタを基盤とするソーシャルワーカーとハウスペアレントのネットワークを編成し、確立する 2-2 2013年から2015年にクラスタごとのトレーニングを各施設持ち回りで開催する 3-1 2013年から2015年にソーシャルワーカーとハウスペアレント向けの研修を実施する
8. 実施期間	2012年10月～2015年9月（3年0か月）
9. 事業費概算額	64,468千円
10. 事業の実施体制	プロジェクトマネージャー監督のもと、アクションの現地事務局スタッフを現地調整員として配置し、社会福祉開発省の第三地域事務所との綿密な連携体制のもと事業実施にあたる。各クラスタおよび施設との連絡体制を整えるため、ソーシャルワーカーの資格をもつフィリピン人スタッフを数名程度雇用し、クラスタごとの研修や各施設へのモニタリングがスムーズに行われるようにする。
<b>II. 応募団体の概要</b>	
1. 団体名	特定非営利活動法人 アクション
2. 活動内容	1994年よりフィリピンと日本で活動を実施している。フィリピンでは、児童養護施設・盲ろう学校・ストリートチルドレンの支援や女性のための所得向上事業等を実施。日本では、海外ボランティア事業やごども向けの国際理解プログラム、児童養護施設へのボランティア派遣等を行っており、自治体や施設との連携においても様々な経験を有している。 2010年度国際交流基金地球市民賞受賞